

平成 27 年 1 月 15 日

平成 26 年度第 1 回 IR 実務担当者連絡会の開催について（プログラム確定版）

大学評価コンソーシアム

1. 開催の主旨

現在、各大学で IR オフィスの設置を進めているが、実際に何から始めてよいのか、何をしたらよいのか分からないことがしばしば指摘されている。そのためには IR の設置の目的や理念を明確にする必要があるが、どのようなことができるのか、という活用の可能性から考えていくことも IR 業務の実質化には有効であろう。

IR については、専門職化も求められつつあるが、当面は事務系職員を中心に運用せざるを得ない状況にある。IR の技法・手法や実施体制、ハウトゥーについては、実践知の集約、整理、共有化が必要であると考えられる。そのような背景を踏まえ、大学評価コンソーシアムでは、実践事例等を報告いただき、共有する機会（場）を定期的に提供していくことを計画している。

10 月に開催したパイロット事業の状況を踏まえ、今回は、報告したい方、議論したい方のほかに、参考のために話だけ聞きたい方（もちろん質問は自由にできます）の参加をお待ちしています。

2. 日時・会場

平成 27 年 1 月 20 日（火） 14：00－17：00

名城大学 名駅サテライト（MSAT）会議室

<http://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/msat.html>

（名古屋市中村区名駅 3-26-8 KDX 名古屋駅前ビル 13 階）

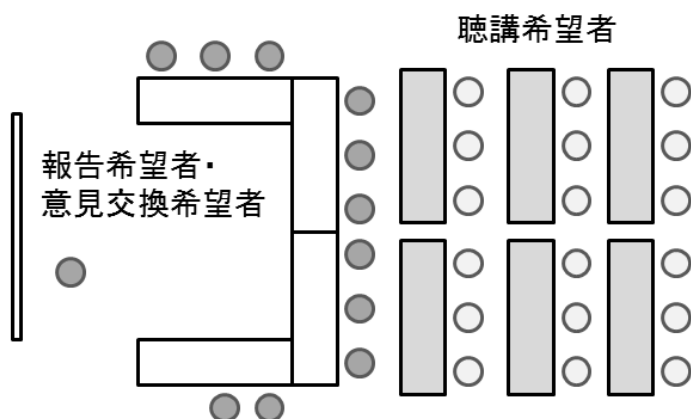
3. 対象

・ IR 実務担当者連絡会では次のような参加者を募集します。

報告希望者：IR の実践事例について、他大学に情報提供を行っていただけの方。または、実践中の課題について、参加者と考えてみたい方。

意見交換希望者：IR 担当者や、IR に興味があり大学評価や学務、経営企画等に関連する調査などに従事したことがある教職員やそれらを支援する学外者のうち、積極的に質問等をした方。
（前の方に座っていただきます。）

聴講希望者：IR 業務を始めたばかり、もしくはこれから始めるにあたり実践事例に興味がある方。
（後ろの方に座っていただきます。）



※イメージ。なお、聴講希望者が多い場合、経験が長い方には前に座っていただくこととなりますのでよろしくお願いします。

4. 定員

スタッフ込み30名程度

5. 参加費

徴収しません。

6. ご注意

- ・録音、撮影は原則的にご遠慮ください。「ここだけの話」的な雰囲気確保のためにご協力ください。
- ・運営で録音、撮影を行いますが、録音は報告者への提供用、撮影は小さくトリミングして、報告用のwebページの素材となります。

7. タイムテーブル

14:00-14:05 趣旨説明 (小湊)

14:05-15:55 講演+質疑応答編

※ このセッションではリアルタイムで質疑応答を受け付けます。また講演終了後にも質疑応答時間をとります(口頭)。

14:05-14:30 新潟大学企画戦略本部評価センター (IR推進室兼務) 准教授 関 隆宏
「オレゴン大学IRオフィス訪問記」

新潟大学では平成26年10月に「IR推進室」を設置した。最近ではIRに関する日本語文献も多く見られるが、米国での事例を実際に見聞きすべく、本学と大学間交流協定を締結しているオレゴン大学のIRオフィスを平成27年1月に訪問した。同大学のIRオフィスの組織や業務の実情について報告する。

14:30-14:55 京都光華女子大学 EM・IR部 橋本智也

「IR実務担当者のための事例解説：質を伴った学修時間の増加・確保に向けた調査分析手法・実施体制」

現在、日本の各大学には教育の質を保証するための体制整備が求められている。そして、質保証を進める手段として、IRの実践に期待が寄せられている。しかし、IR担当者の実務に応用できる具体的な知見の蓄積は十分ではない。そこで、本発表では、質保証の指標の1つとして関心が高まっている「質を伴った学修時間」を取り上げ、その増加・確保に向けた具体的な調査分析手法・実施体制を報告する。

14：55－15：20 愛知教育大学 教員養成開発連携センターIR部門研究員 相原総一郎

「新入生学習調査の使い方：入学時の調査で学業成績(GPA)を予測する」

本学では2014年度から入学時オリエンテーションで高校での学習経験等をたずねる調査を開始した。この調査は4大学の共同実施でベンチマーキングによる評価ができる。また、IDを鍵変数に、学内の他のデータと関連づけることもできる。本発表では、新入生学習調査 HATO 版 2014年の調査結果と1年生前期の学業成績(GPA)との関係から、調査プロジェクトや調査票の設計等について報告する。(内容は学内で調整中とのことですのでご承知おきください：企画担当者註)

15：20－15：55 名城大学 学術研究支援センター 課長 難波輝吉

「IRことはじめ－5年前の萌芽的取り組み－」

5年前に大学教育開発センターに所属していたとき、多読教育による効果的な英語教育の開発支援を担当していた。

教育成果の分析、教員の授業改善、教材整備、予算措置など、包括的にデータに基づく業務推進を行い、英語教育の質的充実に貢献してきた。その後、人事異動に伴って複数の部署を異動してきたが、英語教育開発支援の経験を活かした“IRマインド”を持った業務推進方法、人材育成の取り組みについて報告する。

15：55－16：10 休憩

16：10－16：55 質疑応答&ディスカッション

- ・みなさんからご質問をお受けします。質問、コメントを質問コメントペーパーにご記入の上、スタッフにお渡しください。
- ・時間が余れば総合討論を行います。

16：55－17：00 アンケート記入

7. スタッフ

小湊卓夫（九州大）、畠田敏行（茨城大）、関隆宏（新潟大）、大野賢一（鳥取大）、藤井都百（名古屋大）、難波輝吉（名城大）、藤原将人（立命館大）ほか

8. 申し込み方法

大学評価コンソーシアムの web サイトからお申し込みください。

12月19日（金）13：00からとなります。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

※本連絡会当日午前中のガイドライン勉強会とは別にお申し込みください。

9. 問い合わせ先

茨城大学 大学戦略・IR室 助教 畷田 敏行

shimadat@mx.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8572

名城大学学術研究支援センター 課長 難波輝吉

nanba@ccmails.meijo-u.ac.jp

電話：052-838-2035

10. 謝辞等

○ この勉強会の開催にあたり名城大学様には、会場のご提供などお世話になります。

○ また、この連絡会の開催には、以下の資金も利用しました。

・平成25年度科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）））

「教学マネジメントにおける大学の有効性の研究」

（課題番号：25381083、研究代表者：小湊卓夫）

・平成25年度科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究））

「日本の大学経営におけるデータに裏付けされた意思決定支援の適応可能性に関する研究」

（課題番号：25590223、研究代表者：浅野茂）

